（調査様式１）

１．　自己評価及び外部評価結果

作成日 令和1年12月14日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300019
法　人　名	有限会社　オクムラハーネス
事 業 所 名	グループホーム　泉の里
所　在　地	鹿児島県鹿屋市上高隈町１５７９－１番地 （電 話）０９９４－４５－２３８８
自己評価作成日	令和1年10月20日

※事業所の基本情報は，WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ＮＰＯさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷町１６番A棟３Ｆ３０２号
訪問調査日	令和1年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当「グループホーム泉の里」は、鹿児島県の大隅半島の高隅山系に囲まれた鹿屋市上高隈町に平成18年10月に開設された認知症対応型共同生活介護事業所です。直ぐ近くには来年開催予定の鹿児島国体の漕艇競技の会場となっている「大隅湖」があり、四季折々の季節を実感することのできる自然豊かな所でもあります。　「明るく豊かな心と心のふれあい」をホーム理念に掲げ、本人様はもとよりご家族のみなさまが安心して暮らせるように、なるべくご本人の思いが少しでも導けるような支援に努めております。月日の経過に伴い、心身の状態の低下も見られ以前のような活動も次第に困難になられておりますが、お一人お一人の健康観察には十分留意しながら、変化時には「かかりつけ医」「訪問看護ステーション」との連携を図り、「ご家族」に報告させていただいております。気分転嫁を図る手段としましては、車いす対応の入居者様も多くなり外出のできる機会は減少しています。「ぶどう狩り」「ミカン狩り」「ドライブ」等、可能な方はなるべく参加できるようにこれからは、もう少し工夫していきたいと思います。
食事面ではなるべく地元で採れた新鮮な食材を使用し、季節感のある献立を提供しており、お米は当法人で育てたものを頂いております。食事形態も身体機能に合わせて、刻み食、ミキサー食、トロミ食等創意工夫に努めております。これからも、みなさまから「泉の里」で過ごせて良かったと言っていただけるような、地域に開放された明るいホーム作りを目指して参りたいと存じます。

当ホームは、風光明媚な高隅山系の麓に位置し幹線道路沿いにあって、鹿屋市市街地から程近く近隣にはキャンプ場や大隅湖がある。かんな棟、ばら棟と命名された２ユニットで平屋建ての家屋であるが、玄関前には利用者の名前が記された表札が掲示されており家庭的なたたずまいの建物となっている。
食事は地産地消を心がけているが、米は法人が栽培した自家精米である。入所時に嗜好調査を行いその後も定期的に食事形態や好みなどを把握し、食べやすく安心して食事が摂れるよう工夫するとともに、いつまでも口腔から食べられるよう取り組んでいる。また、シルバー人材センター派遣社員が調理を担当しているため、他の職員は介護に専念できる利点を活かし職員同士意見交換をしながら連携し食事が楽しくなるよう取り組んでいる。
食に対する意識が高く食物繊維や栄養価を考えた調理や手作りおやつを提供し、家族会では利用者と家族が一緒に食事を楽しむ機会を設けている。
平均の要介護度は、「要介護３」であるが、要介護５の認定の利用者もいるなど重度化しているため外出が思うようにできなくなったが、本人の希望や体調を伺いながら少人数で外出支援を楽しんでいる。今年も桜やひまわり、コスモス見物、みかん狩り、季節ごとのドライブに出かけている。
日常は、天候や体調を見ながらホームの庭先で日光浴をしたり、近隣を散策するなどして四季の移り変わりを肌で感じられるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「明るく豊かな心と心のふれあい」をホーム理念に掲げ、実践できるように努めている。	理念は、代表者の想いの込められたもので毎月の全体職員会議では触り返りの機会を設けている。職員は、常に理念を意識し日々の実践に活かすよう取り組み浸透している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、回覧板を閲覧したり、地域の清掃、空き缶拾い等にも出席している。 屋外の行事に参加することは安全上から難しい、秋祭りや花火大会等	町内会活動に参加したり、オレンジの窓を引き受け福祉や介護の相談を柔軟に受けるなど事業所の力が地域の一役となるよう取り組むとともに、運営推進会議や防災活動を通じて日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議等の中で、認知症の方の理解や支援法について話す機会がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	２ヶ月毎に運営推進会議を開催し、ホームでの活動状況を報告している。その中で推進委員の意見を聞きサービス向上に役立てている。最近は防災活動に向けた意見交換が行なわれた。	定例会議では、事業所の取り組み状況や活動報告、実情を踏まえ参加メンバーと地域や事業所の課題などについて話し合い、相互に協力関係を築くとともに事業所運営に理解を求めている。また、管理者は、会議内容の充実や参加メンバーの活性化を図りたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り，事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取り組んでいる	常に行政機関との連携を図っている。推進会議等でもホームでの活動状況を詳細に報告できる機会がある。	市担当者や福祉関係者などとの連携があり、アドバイスをもらったり、相互に相談をして協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間でも身体拘束をしないケアについて理解に努めている。現在１名無断離設の恐れのある利用者があり、全く目の離せない状況がある。家族からの依頼もあり玄関は施錠している。	身体拘束等の適正化委員会は、３ヶ月ごとに開催されている。現在、帰宅願望があり離設傾向の方がおられるが職員の認知症ケアや対応が功を奏し認知面が安定してきている。しかし、過去の経験を踏まえ念のため玄関を施錠することがある。日常は、スピーチロックなどに注意を払い行動を抑制するようなケアを慎み本人主体の介護を心がけるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修に参加する機会がある。職員間でも虐待防止については常に自覚するように、ケア会議等でも話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議等で制度の理解や活用法については話す機会がある。現在２名の方が日常生活自立支援事業を利用されている。利用料の支払い、通帳管理等		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料の改定時等は文書と口頭で報告・説明し同意書を受領している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、面会時、家族会等で意見を聞ける機会があるが、なかなか意見等が聞かれていないのが実情である。もう少し話のできる雰囲気が提供できるといいと思う。	利用者や家族とは、家族会や行事の際や面会に来られた時にその都度意見、要望などを聞き取るよう努めている。信頼関係を築き忌憚なく意見交換ができるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見交換の機会はあるが、意見はあまり聞かれない	自己研鑽レポートがあり、個々のスキルアップ、意識向上が図れるよう目標管理している。シルバー人材センターから３名派遣を依頼し、職員との関係も良好で、夜勤専任職員も人材確保され、職員の希望、要望が反映されるよう十分に話し合い，働きやすい職場環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	食員会議等を通して、就業環境の整備はできており、代表者との意見交換の機会もある。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の機会もあるが、常勤職員数が不足しており、以前と比べて研修参加の機会が少なくなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の同業者で作る協議会主催の研修参加の機会がある。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、本人との面談を行い情報をなるべく収集し、信頼関係を築いている。そして、担当ケアマネや主治医からの意見を参考にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人に続き、ご家族との面談を行い、なるべく細かい情報収集に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでのサービス利用が、本人にとって適切かを総合的に判断して入居を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対等に過ごせるように、本人の意向が叶えられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係がこれまでと同様に良好に維持できるように、それぞれの思いを大切にした援助を行なう。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来訪された時などこれまでの生活ぶりを聞いたりして、馴染みの関係が継続できるように、いつでもホームに訪ねてこられるような雰囲気作りをしている。	近所の方が遊びに来られたり、本人の行きたい店に食事に出かける利用者いる。また、受診時には病院で本人と面会される家族もおられたり、馴染みの場所をドライブして人や場所との関係性が築けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間作りができるように、スタッフが仲介役となり援助している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関の入院や他施設への入所等があっても、面会の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のこれまでの生活史を振り返ったり、本人に尋ねたりして意向等を導き出している。困難な場合は家族への聞き取りを行なう。	入所前の生活状況を把握し、本人の暮らしぶりや思いを汲み取り、利用者らしく暮らせるよう配慮するとともに家族に協力をいただきながら情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネや、ご家族からの情報で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮し方を観察しながらその方も持っている残存能力の維持向上を目指している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報を全職員で把握して、介護計画を立案、モニタリングしている。	アセスメントやモニタリングの結果を踏まえ、ケアカンファレンス、ミーティングなどで話し合いを持っている。家族には、介護計画書の内容をわかりやすく説明し、目標を達成するための方策について共に話し合い、本人の思いやそれぞれの意見が反映した介護計画書を作成している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り事項は全職員で共有し、個別の記録をしている。特に日勤者から夜勤者へ、夜勤者から日勤者への申し送り事項はもれのないように気をつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の受診同行が原則になっているが、受診同行、入退居時の送迎、必要時の家族への食事提供等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし力を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	火災避難訓練時に地域の消防分団、地域住民の協力が得られた理、運営推進委員に自治会長、民生委員に就任してもらい、情報交換したりする体制がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前のかかりつけ医に継続的に受診できるように支援している。受診時は職員も同行し情報を提供している。	本人や家族の希望するかかりつけ医で全体の９割が訪問診療を受けている。緊急時や夜間などは、訪問看護と連携し適切な医療が受けられるよう支援している。外来受診や他科受診は、家族の協力を得て必要に応じて職員が同行するなど協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションや訪問診療所の看護職員と常に連携が図れ、相談できる体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の担当医師やの医療相談員との連携を強化し、早めの退院が出来るように連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアをホームで希望された時には、説明し同意書を受領している。在宅診療所との契約をお願いし、訪問看護ステーションとも医療連携を図る。	重度化や終末期におけるホームの指針については、書面にて説明・同意をいただいている。看取りの経験があり、直近では１年前に実施、段階に応じて主治医を交え、本人、家族、関係機関と話し合い穏やかに暮らし自然な看取りができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しい職員への学習があまりできていないため、早急に訓錬を行ないたい。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓錬は年２回実施できている。地震や水害等の訓錬は町内で年１回実施している。消防分団の協力で、７月の大雨時は１０ｋ離れた系列施設へ避難でき協力体制を築いている。	自然災害の多い台風シーズン到来時、鹿屋市あんしん安全課の避難・誘導の支援があったり、系列の法人のデイサービスセンターへ避難するなど法人の協力体制がある。地下水が確保され、米、災害グッズや個々の情報を入れた避難袋を準備するなど災害時の備蓄がある。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にしながら、自室でプライバシーが損なわれないように、声かけ等に気をつけている。	プライバシーマニュアルがあり、権利擁護や接遇マナーについても定期的に研修を実施し、知識を研鑽している。ノックをしてから入室するよう心がけており、トイレはカーテンで仕切っていることから、臭いや音などに配慮し、プライバシーを損ねることがないよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定の内容が現実的でない事柄が頻発している。できるだけ副うことの出来る内容には支援に努めている。 例・・・自宅に帰る、山に行く稲刈りに帰る　等		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの表情や体の動き体調を観察しながら、精神的な安定が図れるように、ペースを大切にした支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	清潔で季節に合った衣類の着用ができているか、常に気をつけている。特に重ね着の方がある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ全員の方が食事を美味しく楽しみにされている。下膳の可能な方は２名のみ、準備や片付けは難しい状況	食事形態を工夫し、自家精米や旬の食材、魚などが食卓を賑わせている。正月料理、そば打ちなどの行事食、誕生日の手作りケーキやさつま芋を活用したおやつなどを提供し、季節を感じたり食を楽しむことができるよう支援している。また、能力に応じたお手伝いをいただき食への意欲を高めている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をチエックして、栄養低下の防止を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	１日３回食事後の口腔ケアは徹底している。就寝時は義歯洗浄も行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握、オムツ使用の方は排泄状態に合わせてオムツの使い分けを行なっている。	排泄チェック表を活用し、排泄のリズムを把握しタイミングをみて声かけや誘導を行い、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している。おむつ使用者が増えてきているが、ポータブルトイレは使用せずトイレ誘導して排泄の自立支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、水分量を増やしたり食物繊維の摂取を勧めている。腹部マッサージや緩下剤の服用等も考慮している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は殆どの方が好まれている。なるべくゆったりした気分で楽しめるように、声かけしながら楽しい話題を提供している。	必要性や本人の希望に応じて入浴支援をしているが、基本的には午後から入浴をしていただいている。入浴を楽しみにしておられる方も多く、体調を見て個々の身体機能に合った入浴方法を検討しながら気持ちよく入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンに応じて、眠ったり休息が出来るように柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は特に大切な支援なので、身体状況をを十分確認し主治医との連携を強化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	もう少し楽しみごとへの支援が必要だと感じる。特に見守りペースで過ごせる方への関わりを増やしたい。どうしても動きの多い方に目が向いてしまう傾向を反省している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会がだいぶ減ってきているので、再考が必要である。どうしても車椅子の必要な方が５名あるために、外出することに消極的になってしまう。３名が９８歳前後で不安もある。その為ホーム周囲の散策は実施している。家族の協力は望めない状況がある。	高齢化や重度化などもあり外出の頻度は減ってきているが、計画的に外出したり、近隣を散策したりと無理のない外出支援を行い、花見見物やドライブ、食事などを楽しんでいただいている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会もあまりないが、特に使いたい希望も聞かれない。使うことも難しい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	事例はほとんどない、電話も聴力低下のために不可能な方が殆どである。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やトイレ表示を行い間違いを防止している。掲示板には季節の風景や飾り物を展示して季節感や生活感を取り入れている。	共用スペースは、天井も高く採光もあり、窓からは高隅山系の眺望が伺え快適な空間である。ユニットが繋がり往来できて日常的に交流ができる環境である。対面式キッチン、畳コーナーにはソファが配置され居室が周りを囲むように配置されている。壁には折り紙による装飾やクリスマス気分を意識した掲示がなされ季節を感じる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間である和室ソファで気の合う方同士が談笑したり、一緒に洗濯物を畳んだりされている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを置いたり、居心地の良い居室作りにもっと工夫が必要	一人ひとりの身体機能や移動手段に応じたベッドを設置しており、介護方法を工夫し住環境を整え転倒予防に努めている。寝具や仏壇など使い慣れた物を持ち込み本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	朝夕の環境整備には特に努めており、無断離設を防止しながら心身が安定する生活環境を作りたい。		

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1 毎日ある
			2 数日に１回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 （参考項目：36,37）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に１回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない